

地域で“生”をまっとうするには？

～在宅医療の経験から見えてきたこと～



超高齢社会を迎えた今、人として尊厳ある“生”をまっとうするには「医療と介護の連携」や「看取りの在り方」をどのように考えるか、また街づくり、社会づくりはどうすればよいのかが問われています。

講師の久坂部 羊さんは、長年の在宅医療の経験から、現在の終末期医療への疑問を投げかけるだけでなく、『老乱』*をはじめ、たくさんの著書の中で提言もなされています。

今回、超ご多忙の久坂部 羊さんに講演をお引き受け頂きました。またとないチャンスです！ 氏の幅広い経験にもとづく示唆に富んだお話を聞いて、地域で“生”をまっとうするとはどういうことか、どんな覚悟や準備が必要なのか、ご一緒に考えてみませんか？ ご参加をお待ちしています。

*『老乱』…朝日新聞出版 2016/11/7 在宅医療を知る医師でもある著者が描く迫力満点の認知症小説。老い衰える不安をかかえる老人、介護の負担でつぶれそうな家族、二つの視点から、やっと見えてきた親子の幸せとは？ 現実とリンクした情報満載の新しい認知症介護の物語。（朝日新聞出版ホームページより抜粋）

2018年 **5**月**26**日(土) 13:30～16:00
(受付 13:00～)

く さ か べ よ う

■ 講 師：久坂部 羊さん

プロフィール： 小説家・医師・大学講師。国内での診療活動のほか、ウィーンなどの在外公館で医務官として勤務。帰国後は在宅医療に携わる。同人誌「VIKING」での活動を経て、『廃肉身』（2003年）で作家デビュー。著作の中で高齢社会医療問題に積極的に発言を続ける。

主 な 著 書： 『老乱』『日本人の死に時そんなに長生きしたいですか』『人間の死に方・医者だった父の、多くを望まない最期』『祝葬』『からだはスゴイ！』『悪医』『嗤う名医』『いつか、あなたも』『神の手』ほか多数

■ ところ： ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター） 5F 特別会議室

■ 参加費： 一般 1,000円（会員 500円）先着順 定員(107名)になり次第〆切ります

■ 申込先：「高齢社会をよくする女性の会・大阪」事務局（申込用紙は裏面）

主催：高齢社会をよくする女性の会・大阪

事務局 TEL/FAX：06-6762-0550 e-mail：wabas-osaka@mbm.nifty.com

